

江別市子ども計画（案）に係る 意見公募（パブリックコメント）結果について

（募集期間：令和7年12月10日から令和8年1月12日まで）

令和7年 月

江別市 子ども家庭部 子育て支援課

市民意見募集の結果概要

■意見の募集結果

募集期間	令和7年12月10日から令和8年1月12日まで
提出者数	2名
提出件数	2件

■意見の反映状況

内 容	件 数
1 意見を受けて案に反映したもの	0
2 案に意見の趣旨が既に盛り込まれているものと考えられるもの	0
3 案に反映していないが、今後の参考等とするもの	2
4 案に取り入れなかったもの	0
5 その他の意見	0
合 計	2

■いただいたご意見の内容等(提出いただきましたご意見は、できるかぎり原文のとおり掲載しております。)

3 案に反映していないが、今後の参考等とするもの

No.	意見の内容	市の考え方
1	<p>はじめに、江別市のこれまでの子育て支援に深く感謝申し上げます。特に産後ケア事業については、心身ともに不安定になりがちな時期に手厚いサポートを受けることができ、非常に心強いものでした。</p> <p>また、地域子育て支援拠点も設備・内容ともに充実しており、孤立しがちな育児の中で親子のリフレッシュや交流の場として大変助かっております。</p> <p>本計画案において、さらなる少子化対策と子育て世帯の負担軽減のため、経済的支援のより一層の拡充を強く要望いたします。</p> <p>具体的には「第2子の保育料の完全無償化」を早期に実現していただきたいです。</p> <p>隣接する札幌市では、2024年4月より所得制限や上の子の年齢制限を撤廃し、第2子の保育料を完全無償化しています。江別市は札幌市のベッドタウンとしての側面もあり、居住地を選択する際、隣接自治体との支援内容の差は大きな判断材料となります。</p> <p>現状の制度では、上の子が小学校に上がると第2子が「第1子」としてカウントされ、多子軽減の対象外となるケースがありますが、これでは子育て世帯の経済的負担感は解消されません。江別市で安心して2人目、3人目を産み育てられる環境を整えるためにも、札幌市と同水準、あるいはそれ以上の踏み込んだ経済的支援を計画に盛り込んでいただくよう、切に願います。</p>	<p>子育て世帯の経済的負担の軽減は重要であると考えており、本市では、これまでも、保育料を国の基準より低い金額に設定するなど、市独自の取組を実施してきたところです。</p> <p>一方、「第2子以降の保育料の完全無償化」については、過去に検討した経緯はありますが、財政負担などの観点から、実現には至っておりません。</p> <p>いただいたご意見は、今後の子ども・子育て施策を検討する上で参考とさせていただきます。</p>

No.	意見の内容	市の考え方
2	<p>子ども計画(案)を読ませていただきました。その感想と意見を述べます。</p> <p>①良かった点は、計画の対象となる子どもが青年期若者まで広がったという事です。心身の発達の過程にある者を広く視野に入れること、大切な事と思いました。</p> <p>②改善が求められると思った点～「子どもが主役・権利の主体」としての施策を作成するにあたって、基礎となるデータが、数量・内容ともに貧弱であることです。</p> <p>江別市の子ども人口、令和6年16,632人に対し、「子ども・若者の声」を聞くとして、アンケート1回(回収率18.6%、559人)ワークショップ3回(中・高・大学生)25人でした。</p> <p>この2つの試みの対象に小学生が入っていませんでした。(高学年になると小学生もしっかり意見を述べることができます。)当事者の直の声として25名、これはあまりに少なすぎます。</p> <p>ワークショップの方法で、参加者を増やす手法があったのではないかと考えています。学校・大学を会場とし、参加人数を学年単位数人ずつとするなど、子どもがリラックスして主体的に参加する環境設定ができなかったのでしょうか(これは、学校との連携・協力がもちろん必要です)。</p> <p>また、ワークショップのテーマ設定について「居場所」は具体的ですが、「子どもの権利」などは、非常に大きな概念・人権教育に触れる者でしたが、事前にレクチャーを受けたりしたのでしょうか。</p> <p>大学生のワークショップ結果について、まとめ方にもよるのかもしれませんが、通りいっぺんで内向きだったと思います。</p> <p>進め方の角度にもよるのかもしれませんが、掘り下げることが必要と思われました。</p>	<p>ご意見のとおり子ども計画の策定にあたり、市民参加の取組として、中学生から大学生までを対象としたワークショップ及び、中学1年生から29歳までの市民を対象としたアンケート調査を実施したところです。</p> <p>今回、対象者を中学生以上とした背景には、現行の第3期子ども・子育て支援事業計画を改定し、若者という視点を取り入れる必要があったことによるものです。</p> <p>そのため、次期計画を策定する際には、多くの年代の方の意見を取り入れられるよう努めてまいります。</p> <p>なお、アンケート調査結果につきましては、郵送またはウェブでのアンケートをお願いしましたが、多くの方からのご回答は得られませんでした。どのようにすれば、より多くの回答をいただけるのか、市としても検討してまいります。</p> <p>また、ワークショップにつきましては、市の過去の取組などを参考に、中学生は各校1名ずつ、高校生は各校2名ずつとしたところです。人数は少数でしたが、活発な議論が行われましたので、大変有意義であったと考えております。</p> <p>さらに、テーマ設定に関しては、スムーズな進行とするため、ワークショップに入る前に基本的な知識を共有する時間を設けております。</p> <p>大学生のワークショップについても有意義なものであったと考えておりますが、市の掘り下げが不十分であったとのご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p> <p>いずれにいたしましても、子ども計画に基づき、必要な子ども・子育て支援施策を着実に実施し、子どもを産み育てやすいまちづくりの実現を目指してまいります。その際には、多くの市民意見を取り入れることは重要と考えておりますので、どのような手法が良いのか検討し、実施してまいります。</p>

◎子ども・若者の声を聞く対象として、不登校の子ども、放課後児童クラブ、児童センター、10代～20代の勤労青年などの声も聞いてほしい。

最後に、令和6年に「江別市子どもが主役のまち宣言」が発表されました。ゆきとどいた環境設定をする責任が大人にはありますが、子どもが主役と思われるまちになるには、子ども自身から発せられる声を、どれだけ汲み上げ、実現に結びつけられるか、大切にしたいと思いました。